

第7次アイシン連結環境取組プラン(2025年目標)

GRI 103-2

「持続可能な環境を未来へ」、「自然と調和し誰もが安心して暮らせる社会」の構築をめざし、2021年度から2025年度までの環境行動指針・計画である「第7次アイシン連結環境取組プラン」を2020年に策定、2021年度よりスタートしております。この目標と取り組みに責任を持ち、着実に遂行、達成することで、持続可能な環境を未来につないでいきます。



脱炭素社会の構築

2050年ビジョン カーボンニュートラルの実現をめざす

取組分野	実施事項・目標										
① ライフサイクルCO ₂ 削減	■ 材料の調達から廃棄までのライフサイクルCO₂削減に向けた基盤構築 ● サプライチェーン全体を通じた削減の具体策設定										
② 製品設計におけるCO ₂ 排出削減	■ 製品を通じたライフサイクルアセスメントによる排出削減 ● クリーンエネルギー車(PHV、BEV、FCV)向け部品の開発 ● 高性能パワートレイン、軽量化等での低燃費化技術の開発 ● 次世代エネルギーシステム商品(燃料電池・バイオ燃料利用)の開発 <table><tr><th>対象</th><th>範囲</th><th>項目</th><th>基準年</th><th>目標</th></tr><tr><td>製品</td><td>グローバル</td><td>総量</td><td>2013年度</td><td>18%削減</td></tr></table>	対象	範囲	項目	基準年	目標	製品	グローバル	総量	2013年度	18%削減
対象	範囲	項目	基準年	目標							
製品	グローバル	総量	2013年度	18%削減							
③ 生産におけるCO ₂ 排出削減	■ 日常改善活動のさらなる推進 ■ 工場新設・設備更新時における最新の省エネ技術の積極導入 ■ グローバルでの省エネノウハウの情報共有の仕組み構築 <table><tr><th>対象</th><th>範囲</th><th>項目</th><th>基準年</th><th>目標</th></tr><tr><td>生産CO₂</td><td>グローバル</td><td>総量</td><td>2013年度</td><td>25%削減</td></tr></table>	対象	範囲	項目	基準年	目標	生産CO ₂	グローバル	総量	2013年度	25%削減
対象	範囲	項目	基準年	目標							
生産CO ₂	グローバル	総量	2013年度	25%削減							
④ 生産における再生可能エネルギー導入	■ 地域特性に応じた再生可能エネルギーの積極活用 ■ 再エネ利用のグローバル展開ロードマップの作成 ■ モデル工場における再生可能エネルギーの活用 <table><tr><th>対象</th><th>範囲</th><th>項目</th><th>目標</th></tr><tr><td>再生可能エネルギー</td><td>グローバル</td><td>導入率(電力比)</td><td>2025年度15%以上</td></tr></table>	対象	範囲	項目	目標	再生可能エネルギー	グローバル	導入率(電力比)	2025年度15%以上		
対象	範囲	項目	目標								
再生可能エネルギー	グローバル	導入率(電力比)	2025年度15%以上								
⑤ 物流におけるCO ₂ 排出削減	■ グループ共同輸送のさらなる拡大による輸送効率化 <table><tr><th>対象</th><th>範囲</th><th>項目</th><th>基準年</th><th>目標</th></tr><tr><td>物流CO₂</td><td>国内連結</td><td>総量</td><td>2018年度</td><td>7%削減</td></tr></table>	対象	範囲	項目	基準年	目標	物流CO ₂	国内連結	総量	2018年度	7%削減
対象	範囲	項目	基準年	目標							
物流CO ₂	国内連結	総量	2018年度	7%削減							



循環型社会の構築

2050年ビジョン 資源効率性の最大化による環境影響の最小化をめざす

取組分野	実施事項・目標														
⑥ 資源効率向上に貢献する製品設計、製品・技術開発	■ リユース・リサイクルに配慮した環境配慮設計の推進 ■ 天然資源投入・廃棄物削減に貢献する製品・技術開発の推進														
⑦ 生産における資源投入・廃棄物排出の削減	■ グループ全体での廃棄物削減（廃プラ有効利用・新技術導入・国内事例のグローバル展開等） <table><tr><th>対象</th><th>範囲</th><th>項目</th><th>基準年</th><th>目標</th></tr><tr><td rowspan="2">廃棄物</td><td>国内連結</td><td>売上高当たり</td><td>2013年度</td><td>9%削減</td></tr><tr><td>海外各社</td><td>排出量</td><td>2019年度</td><td>実績以下</td></tr></table>	対象	範囲	項目	基準年	目標	廃棄物	国内連結	売上高当たり	2013年度	9%削減	海外各社	排出量	2019年度	実績以下
対象	範囲	項目	基準年	目標											
廃棄物	国内連結	売上高当たり	2013年度	9%削減											
	海外各社	排出量	2019年度	実績以下											
⑧ 社会全体の資源循環システム構築等への貢献	■ 天然資源投入・廃棄物削減に関する社外パートナーとの協働 ■ 物流梱包材使用量の低減 ● 材質・仕様変更による軽量化・簡素化 ● 通箱・パレットのリユース														
⑨ 生産における水資源効率の向上	■ 水資源投入削減の推進 <table><tr><th>対象</th><th>範囲</th><th>項目</th><th>基準年</th><th>目標</th></tr><tr><td rowspan="2">取水量</td><td>グローバル</td><td>売上当たり取水量</td><td>2018年度</td><td>2.1%削減</td></tr><tr><td>高リスク拠点</td><td>生産量当たり取水量</td><td>2019年度</td><td>12.5%削減</td></tr></table>	対象	範囲	項目	基準年	目標	取水量	グローバル	売上当たり取水量	2018年度	2.1%削減	高リスク拠点	生産量当たり取水量	2019年度	12.5%削減
対象	範囲	項目	基準年	目標											
取水量	グローバル	売上当たり取水量	2018年度	2.1%削減											
	高リスク拠点	生産量当たり取水量	2019年度	12.5%削減											
⑩ 地域の水資源保全等への貢献	■ 工場周辺地域の水に関わる生物調査・清掃活動の継続・拡大 ■ 排水の自主基準（法令基準以上または地域要請水質）の順守継続														
⑪ サプライヤーと協働した水資源環境の改善	■ 水分野におけるサプライヤーとの協働の強化														

第7次アイシン連結環境取組プラン(2025年目標)



自然共生社会の構築

2050年ビジョン 自然・地域生態系との調和のグローバル実現をめざす

取組分野	実施事項・目標										
⑫ 生物多様性への 負荷低減	■ ポスト愛知目標に合わせた「アイシングループ生物多様性ガイドライン」改定										
⑬ 自社拠点におけ る生物多様性の保全	■ 生物多様性調査に基づく拠点別の生物多様性活動 ■ 「自然と共生する工場」の定義に基づいたモデル工場の整備 <table><tr><th>対象</th><th>範囲</th><th>項目</th><th>基準年</th><th>目標</th></tr><tr><td>自然と共生 する工場</td><td>グローバル</td><td>実現数</td><td>—</td><td>3拠点</td></tr></table>	対象	範囲	項目	基準年	目標	自然と共生 する工場	グローバル	実現数	—	3拠点
対象	範囲	項目	基準年	目標							
自然と共生 する工場	グローバル	実現数	—	3拠点							
⑭ 地域の生物多様性の 保全・向上への貢献	■ 「自然と共生する工場」を活用した環境コミュニケーションの充実										



全テーマ共通の基盤活動

2050年ビジョン 環境マネジメントシステムの高度化をめざす

取組分野	実施事項・目標
⑮ 生産活動における 環境負荷物質低減	■ 法規制・環境影響を先取りした化学物質の削減・管理強化
⑯ グローバル連結環境 マネジメントの運用 および環境取組基盤 の強化	■ 環境コンプライアンスの順守徹底 ■ 情報通信技術による環境活動の高度化 ■ 環境事故を想定した訓練の継続 ■ 連結環境マネジメントのグローバル統合のための基礎づくり ■ グローバル環境人材の育成強化
⑰ サプライチェーンマネ ジメント	■ グループ環境ビジョン・目標のサプライヤーへの共有と環境取組推進支援 ■ サプライヤーの環境取組の情報収集体制の構築 ■ 新規サプライヤー候補の環境リスク評価・既存サプライヤーの監査実施
⑱ 環境コミュニケーショ ン、ステークホルダー エンゲージメント	■ さまざまなステークホルダーに対応した環境コミュニケーションの維持・拡大 ■ 地域社会と連携した環境活動の展開



脱炭素社会の構築

GRI 102-15, 302-4, 305-5

アイシンでは、カーボンニュートラル達成に向け、生産CO₂削減はもとより、商品設計から、輸送、使用、廃棄に至るまでのCO₂削減を進めています。燃費向上に貢献する電動化ユニット、電動車やFCEVに対応したブレーキ、シャシー、ボデー商品などの開発を加速させています。また生産でのCO₂排出量を大幅に削減すべく、社内での省エネ活動、生産技術革新テーマの積み上げ、再生可能エネルギー導入にも取り組んでいます。

省エネ事例発表会の開催

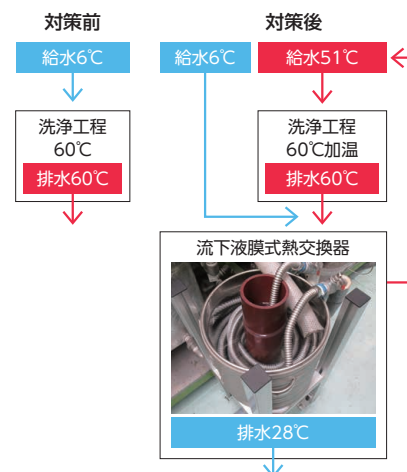
グループ全体での省エネ活動レベルアップを目的に、『アイシン連結省エネルギー研究会事例発表会』を実施。アイシングループの約50社が参加しました。54の事例の中から優秀事例として5事例に表彰を実施し、グループ全体でのレベルアップを図ることができました。



Webで実施した省エネ事例発表会の様子

洗浄工程の排水からの熱回収

アート金属工業では洗浄工程（リンス槽）の回路に自社製作の熱回収装置を接続し、加熱用ヒーターの使用電力削減を行いました。年間で463,145kWhの電力の削減、CO₂としては、197tの削減となりました。



再生可能エネルギーの導入

アイシンでは、地域性を加味した、再生可能エネルギーの導入を進めています。現在約40社で太陽光パネルを設置し、発電を行っています。また、イギリスの拠点では、再生可能エネルギー電力導入100%を達成、現在も継続しています。



アート金属工業 塩田工場

CO₂フリー製品の導入

製品の生産CO₂フリーに向け、アイシン、アイシン高丘、アイシン軽金属で、生産CO₂フリーラインを導入しました。生産時に排出されるCO₂を削減、またオフセットすることで気候変動対策に貢献するCO₂フリー化を達成しています。





循環型社会の構築

GRI 102-15, 303-1, 306-2

アイシンでは、開発・生産・物流における環境負荷「ゼロ」をめざして、資源の有効活用やリサイクルできる商品の開発、生産や物流での資源循環の徹底、水資源の有効利用のための活動を、グループ一丸となって実施しています。

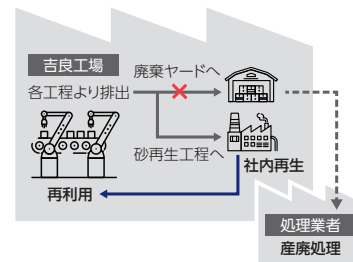
自社設備でのプラスチック有価化活動

アイシン半田工場にあるエコセンターでは、プラスチックを自社で分別・破碎し、質の高い材料として生まれ変わらせるマテリアルリサイクルを実施しています。この活動により、資源の循環を実現しております。



鋳物砂再生拡大による廃棄物低減

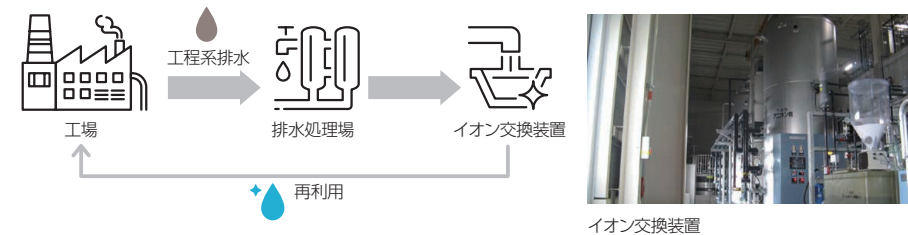
アイシン高丘吉良工場では、生産工程で排出される鋳物砂を再生し、社内・構内中子業者へ中子砂として供給をしています。これにより、年間1,594tの廃棄物低減を実現しました。



工程排水のリサイクル化

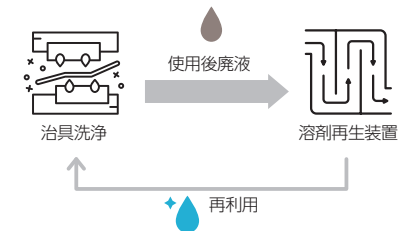
アイシン北海道では、水使用量・排出量を抑えるため、排水を処理した水を元の工業用水レベルに戻し、工場で再利用しています。導入することで約95%の再利用が可能となり、水使用量としては約50%削減できました。

アイシン北海道の他、アドヴィックス刈谷工場、アイシン藤岡試験場・豊頃試験場、アイシン辰栄幸田工場、ブラジルや中国でも水をリサイクルし、水使用量を削減する活動を行っています。大切な水資源を守るため、活動を進めています。



IPA(イソプロピルアルコール)の蒸留再生

アイシン半田工場では、廃棄物低減・副資材の購入費低減に向け、洗浄に利用したIPAの蒸留再生を行っています。蒸留再生をする前は、年間約1.2tの廃液が出ていましたが、溶剤再生装置を導入することで再利用が可能になっています。





自然共生社会の構築

GRI 102-12, 15, 304-3, 4

アイシンでは、生物多様性保全の実現に向け、考え方・方向性をまとめ、持続可能な企業活動に向けた環境指針を提示した「アイシングループ生物多様性ガイドライン」を2017年にアイシン連結環境保全研究会で制定しました。このガイドラインに沿って、研究会では、環境異常の未然防止に加えて、自然環境を守るための生物多様性活動に積極的に取り組んでいます。第7次アイシン連結環境取組プランにおいて自然と共生する工場の目標を設定し、自然との調和をめざしています。

カナダでの生物保全活動

アイシン カナダでは、生物保全活動の一環として、テムズ川の絶滅危惧種であるトゲスッポンの保全活動を開始しました。この活動はテムズ川にて卵を採り、孵化させた後、川に返すという活動です。生息環境維持改善のため、川の清掃活動も実施しています。



自然と共生する工場の活動

第7次アイシン連結環境取組プランの目標である自然と共生する工場認定に向け、アイシンでは独自の定義を検討し、活動を進めています。2021年度は対象3拠点、指標種の選定が完了しました。アイシン半田工場、アイシン軽金属有機工場、アイシン辰栄幸田工場の3社でワーキンググループを開始し、密に情報を交換しています。



生態系調査の様子(アイシン半田工場)



指標種のウシモツゴ(アイシン辰栄幸田工場)

全国5ヵ所での生物多様性保全活動の実施

日本国内拠点がある地域を中心に、全国5ヵ所で地域に根ざした生物多様性活動を行っています。熊本県の活動では、継続的な希少種保護活動協力に際し、県より感謝状が贈呈されました。



北海道(ウトナイ湖)
2016年～継続活動
湖畔周り外来種除去による生態系保護



北陸地区(中池見湿地)
2014年～継続活動
中池見湿地内の里地里山保全
(無農薬水田維持)による生物多様性保護(希少種:デングシノウ)



九州地区(阿蘇保護区)
2015年～継続活動
除草による希少種の保護(希少種:オグラセンノウ)

東北地区(花巻市溜池郡)
2017年8月～
除草、外来種除去等による希少種保護活動(ゼニタナゴ)

三河地区(矢作川河口)
2012年～継続活動
生物調査、清掃活動を碧南水族館と共同で地域住民とともに実施

生物多様性に関するアライアンスへの参画・イニシアチブへの賛同

アイシンではこれらの生物多様性活動を行いながら、環境省の30by30アライアンスへの参画、経団連生物多様性イニシアチブへ賛同をしています。





全テーマ共通の基盤活動

GRI 102-15

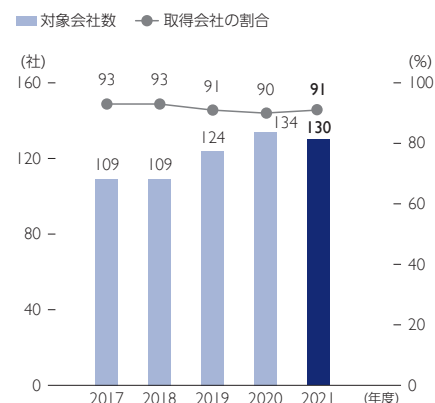
環境マネジメントシステムの高度化をめざし、持続的に発展できるように活動を進めています。国内外のアイシン連結会社全体でパワーアップしていくために、ISOの取得、また教育を実施しています。

ISO取得率

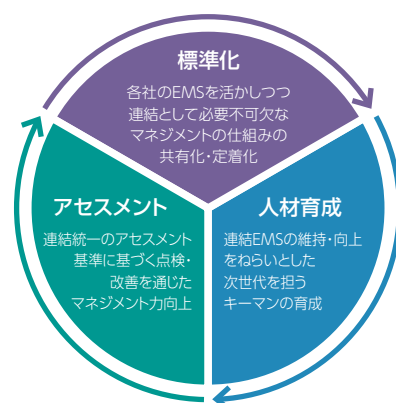
環境のトップランナーをめざす上で、EMSの継続的な改善を推進しています。国際規格ISO14001の取得だけでなく、さらに厳しいマネジメントレベルをグループ独自の目標として活動しています。

また、グループ全体の環境マネジメントを柱に推進するEMS研究会では、次の3つの活動を柱に推進しています。

ISO14001認証取得会社数/取得割合



EMS研究会 活動の3本柱



グループグローバル・サプライヤーに向けた教育の実施

環境データの信頼度向上に向け、生産機能を持つ約140社を対象に、環境データ管理システムの再教育を行いました。実績入力・納期遵守の重要性を改めて伝えることでより正確な環境データ収集につなげています。

また、アイシンの主要サプライヤーの有志団体である「つばさ会」に向け、環境教育を毎年実施しています。2021年度は廃棄物管理をテーマに約100社の仕入先へ教育を実施。法順守徹底を周知し、サプライヤーでの環境異常ゼロをめざしています。

化学物質管理システムの再構築

2021年4月の旧アイシン精機と旧アイシン・エイ・ダブリュの統合において、化学物質管理における法順守ワークフローを統一することを目的に、システムの再構築を2020年より検討し始めました。ここでは、会社の環境法順守体制の入口管理を強化することを目的に環境影響評価と化学物質審査を結びつけることによって、EMSが円滑に回るような仕組みを作り直しています。新システムは両社のいいところを、化学物質管理をしていくために2022年4月から正式運用しています。

中国地区仕入先点検の実施

安全環境の法規制強化による生産停止リスクを低減するため、2019年度より仕入先安全環境点検の活動を推進しています。2021年度は47社に対し、現場訪問点検、またWEB点検を実施しました。